経済学用語集

労働者錯覚モデル

講師：加藤 真也

© 2022 Shinya Kato

労働者錯覚モデル(フリードマン, フェルプス)

マネタリスト(古典派寄りの考え)

：労働者は名目賃金wの変化を、実質賃金$\frac{w}{P}$の変化と一時的に錯覚するために労働供給量N_Sを変化させる

貨幣錯覚

⇒ AS曲線が右上がりである理由や、自然失業率仮説の説明に使われる

© 2022 Shinya Kato

前提(労働者錯覚モデル)

実質賃金 $\frac{w}{P}$ も観察できる

①企業は名目賃金wも物価Pも観察できる

⇒ 実質賃金 $\frac{w}{P}$↑→ 労働需要量N_D ↓

②労働者は名目賃金wは観察できるが、物価Pは観察できない

⇒ 労働者の予想物価P^e(期待物価)とし、

expected

物価Pが変化しても労働供給量N_Sは不変

期待実質賃金 $\frac{w}{P^e}$↑→ 労働供給量N_S ↑

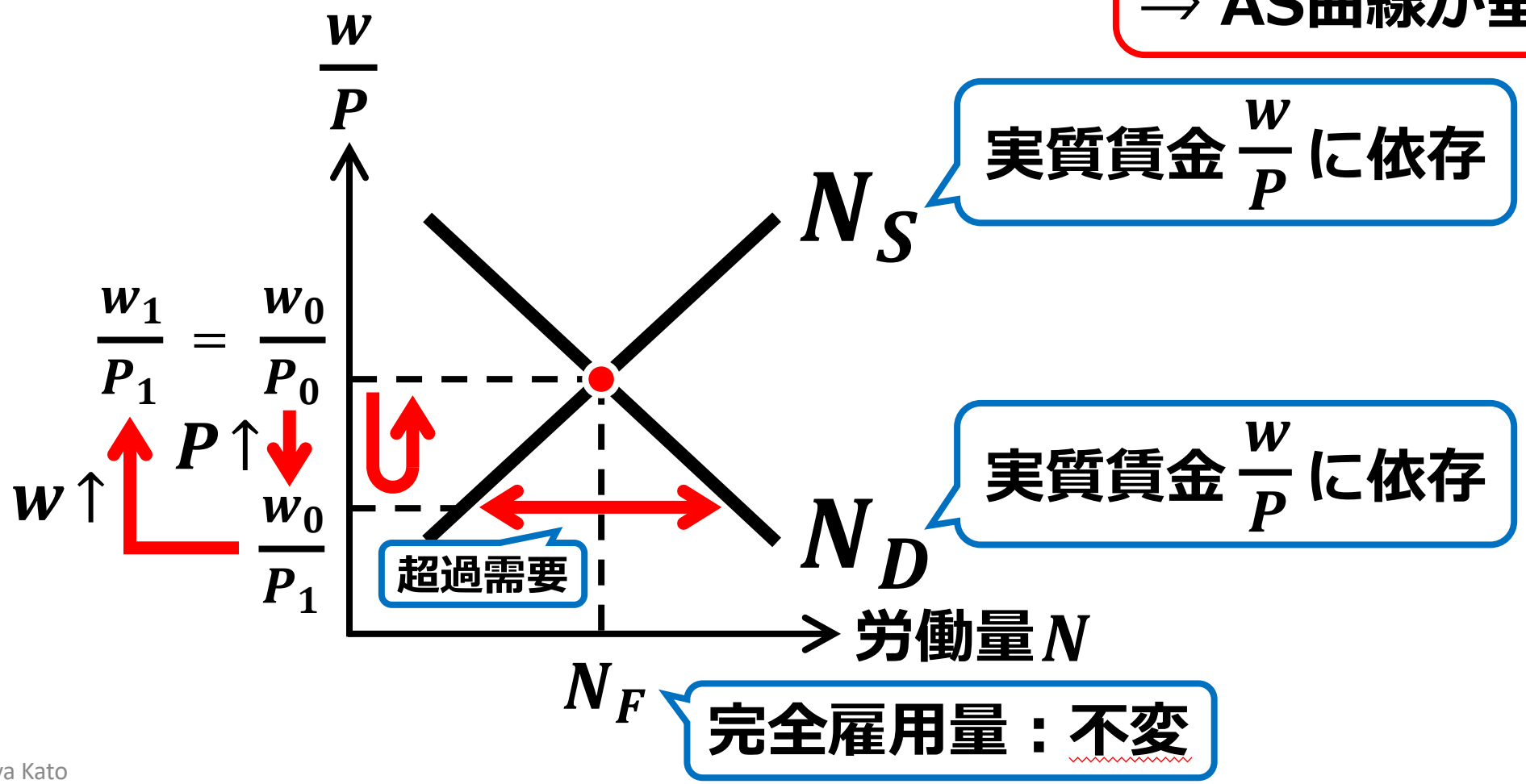
長期：$P^e = P$

③長期的には労働者は正しく物価を予想

© 2022 Shinya Kato

・労働者がP ↑を正しく予想
⇒ 通常の古典派のケース

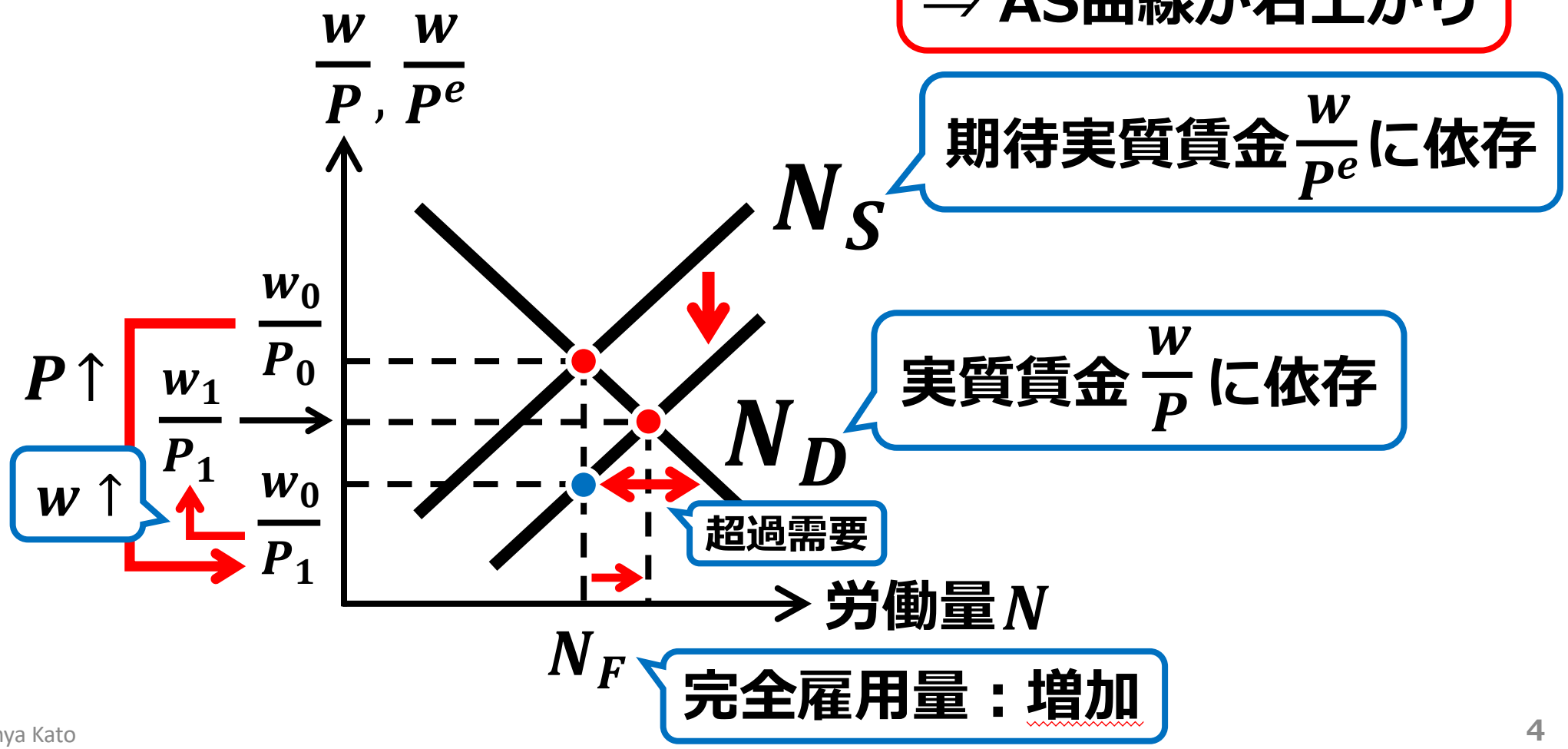
P ↑ → Y_Fで不変
⇒ AS曲線が垂直



© 2022 Shinya Kato

・労働者がP ↑に気が付かない
⇒ 労働者錯覚モデル

P ↑ → Y_F ↑ (短期)
⇒ AS曲線が右上がり



© 2022 Shinya Kato

まとめ(労働者錯覚モデル)

Step1　物価Pの上昇 → 実質賃金w/Pの下落

Step2　労働需要量N_Dの増加

Step3　労働市場で超過需要

Step4　名目賃金wの上昇

Step5　労働者はw ↑を実質賃金w/Pの上昇と勘違いをする：貨幣錯覚

Step6　労働供給量N_Sを増加させる

Step7　完全雇用国民所得Y_Fの増加

労働者はP ↑による実質賃金w/Pの下落に気付かないので(期待実質賃金は不変)労働供給量N_Sを減らさない

期待実質賃金w/P^eは上昇している

© 2022 Shinya Kato

右上がりのAS曲線の導出理論

①名目賃金硬直モデル(ケインズ)
⇒ 不完全雇用均衡(労働市場は不均衡)

②労働者錯覚モデル(フリードマン, フェルプス)
⇒ 完全雇用均衡(労働市場は均衡)

③不完全情報モデル(ルーカス)

④価格硬直モデル(ニュー・ケインジアン)

© 2022 Shinya Kato